2025 年度　仙台青葉学院大学　看護学部看護学科　入学試験問題

小論文

受験番号	氏名

【問題】以下の文章を読み、設問1～4 に答えよ。

不平等が存在するとか，それが大きすぎるといったことは，公正や不公正の感覚とどのように結びつくのであろうか。この問いに答えるためには，そもそも公正とはどのような状態であるか考える必要がある。大渕（2008)は，公正を「個人をその資格条件にふさわしいやり方で A.処遇すること」と定義している。資格条件にはさまざまなものが想定され，たとえば頑張った人に対して多くの給与が支払われる社会では，公正な処遇を得るための資格条件は努力や a.ジッセキということになる。一方で，全員に分け隔てなく B.一律な賃金を分配するという社会が存在する場合，その社会の一員であることが資格条件となる。

公正判断においてどのような資格条件が選択されるかは，その社会や集団がもつ目標によって変化する（Deutsch, 1975)。生産性を重視する集団では能力，努力，業績などに基づく衡平基準が，社会的調和を重視する集団では集団成員性に基づく平等基準が，そして成員の福祉を重視する集団では発達段階，C.困窮度，障害などに基づく必要性基準がそれぞれ用いられる（川嶋・大渕，2013; 大渕，2008)。ただし，現実場面ではこれら 3 つの基準は複合的に用いられることが多い。たとえば，多くの会社では能力給，基本給，その他の手当て（D.扶養手当，通勤手当など）が組み合わさって全体の給与を構成しているが，これらは順に衡平，平等，必要性の基準に基づいて b.シキュウされるものとみなすことができる。一方で，その会社が競争や生産性を重視するのであれば能力給の比重が大きくなるし，集団の調和や福利厚生を重視するのであれば基本給や諸手当が手厚くなるといった形で，集団の目標や理念と資格条件とは強く結びついている。

それでは，日本人はどのような社会を理想とするのであろうか。すでに述べたとおり，2010 年の世界価値観調査では，個々人の努力を刺激するようもっと収入の開きを大きくすべきと回答する人が全体の半数を下回った（東京大学・電通総研，2011)。ただし，この結果のみから，日本人の間で衡平原理への支持が弱まったと①言い切ることはできない。実際，2000 年以降に実施された同調査のその他の項目への回答傾向を見ると，「競争は新しいアイデアを生みだすので好ましい」か「競争は人間の悪い面を引き出し有害である」かを尋ねた項目では 7 割以上が前者を選択しているし，めざすべきこれからの日本として「働いた成果とあまり関係なく，c.ヒンプの差が少ない平等な社会」か「自由に競争し，成果に応じて分配される社会」かを尋ねた項目では前者を支持する人が増加傾向にある一方で，やはり半数程度の人々が後者を支持している（東京大学・電通総研，2011)。

このような二者 d.タクイツ方式に対して，大渕（Ohbuchi，2011)はそれぞれの公正基準の重要度を独立して測定した。具体的には，日本社会はどのような社会であるべきかという問いに対して，個別の基準がどの程度支持されるか調査したところ，支持率は衡平基準で 79.1%，平等基準で 78.2%，必要性基準で 94.8%であった。これらの結果を総合すると，多くの日本人が社会の生産性を高めるために努力や能力に基づく衡平基準を導入することを基本的に支持しているといえる。しかし同時に，社会の成員間にはある程度の平等性が保たれる必要があるし，弱者に対する救済は特に重要であるとみなしているようである。社会情勢によりこの先②日本人の公正観が変化することはもちろんありうるが，少なくとも現在の多くの日本人は，社会の調和性と弱者保護に十分配慮したうえでのほどよい競争主義を望んでいると考えることができる。

出典：大渕憲一 監修『紛争・暴力・公正の心理学』、北大路書房、151-152、川嶋伸佳著、2016 年、一部改変

設問１．下線部 A，B，C，D の漢字をひらがなで記せ。

設問２．下線部 a，b，c，d のカタカナを漢字で記せ。

設問３．下線部①「言い切ることはできない」について、その根拠を文中では 2 つ挙げている。2 つの根拠をそれぞれ 50 字以内で述べよ。

設問 4．本文を読んで、下線部②「日本人の公正観」についてあなたの考えを 500 字以内で述べよ。